

2023年5月19日

## 2023年 ゴールデンウイーク集客動向調査

### イベント再開で前年比+38%増加も、6割超の施設等は集客に苦戦

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、「2023年 ゴールデンウイーク集客動向調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

#### 調査結果の概要

1. 今年のゴールデンウイーク期間中（4月29日～5月7日：9日間）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（247カ所）の集客数は延べ661.9万人で、前年（2022年、480.1万人）からは+37.9%増加したものの、浜松まつりを除くと△13.1%となり、コロナ感染拡大前の2019年（928.8万人）と比べると△28.7%にとどまった。
2. 個別にみると、6割超の施設・イベントでは前年を下回り、9割超ではコロナ前の実績に届かなかった。コロナ収束は大きなプラス要因となったものの、天候や曜日配列に加えて、物価高による家計状況が人出を鈍らせる要因になったと推測される。
3. 今年の来訪者の特徴としては、“県外客”“家族連れ”“2～4人”“自家用車”での来訪が目立った。コロナ禍で注目されたマイクロツーリズム（近場観光）は一服し、近隣の人々が遠方の観光地に流出したことで、近隣客の来訪が減ったとみられる。
4. 4年ぶりに気兼ねなく外出できる環境が整ったとはいえ、GW前の予想に届かなかった施設は多い。繁忙期である夏休みや秋の行楽シーズンに向けて巻き返しを図るべく、精力的な情報発信で静岡県の良さを再認識してもらい、観光客を呼び戻したい。

※本件のお問合せ先 増田 翔太郎

# 2023年ゴールデンウィーク集客動向調査

～イベント再開で前年比+38%増加も、6割超の施設等は集客に苦戦～

主任研究員：富田 洋一 研究員：増田 翔太郎

- 今年のゴールデンウィーク期間中（4月29日～5月7日：9日間）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（247カ所）の集客数は延べ661.9万人で、前年（2022年、480.1万人）からは+37.9%増加したものの、浜松まつりを除くと△13.1%となり、また、コロナ感染拡大前の2019年（928.8万人）と比べると△28.7%にとどまった。
- 個別にみると、6割超の施設・イベントでは前年を下回り、また、9割超ではコロナ前の実績に届かなかった。コロナ収束は大きなプラス要因となったものの、天候や曜日配列に加えて、物価高による家計状況が人出を鈍らせる要因になったと推測される。
- 今年の来訪者の特徴としては、“県外客”“家族連れ”“2～4人”“自家用車”での来訪が目立った。コロナ禍で注目されたマイクロツーリズム（近場観光）は一服し、近隣の人々が遠方の観光地に流出したことで、近隣客の来訪が減ったとみられる。
- 4年ぶりに気兼ねなく外出できる環境が整ったとはいえ、GW前の予想に届かなかった施設は多い。繁忙期である夏休みや秋の行楽シーズンに向けて巻き返しを図るべく、精力的な情報発信で静岡県の良さを再認識してもらい、観光客を呼び戻したい。

## 全体では前年比プラスとなったが 6割の施設・イベントが前年を下回る

今年のゴールデンウィーク（以下、GW）は、昭和の日（4月29日）から翌週の日曜日（5月7日）までの期間中、平日を2日休むと後半の5連休と合わせて9連休となった。GW明けの5月8日には、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類へ移行することが発表されており、先んじて入場制限を撤廃するなど、コロナ前と同じ形で営業した施設やイベントは60.3%に上り、県内の行楽地は多くの人出が期待された。

そして、今年のGW期間中の静岡県内の主なイベントや観光施設247カ所の人出は延べ661.9万人と、前年（2022年、480.1万人）から+37.9%増加した（詳細は6頁、図表5参照）。その大きな要因となったのが、4年ぶりに完全開催となった「浜松まつり（255.5万人）」で、前年比+243万人と全体を押し上げた。

しかし、浜松まつりを除いた期間中の人出は前年比△13.1%と振るわなかった。施設・イベントごとにみると、前年と比較可能な232カ所のうち155カ所（66.8%）が集客人数で前年を下回っている。

また、コロナ感染拡大前の2019年（928.8万人）と比べると、集客数では△28.7%にとどまり、92.1%の施設・イベントで19年実績に届かず、多くのスポットが集客に苦戦した。

## コロナ沈静化はプラスだが 天候や物価高がマイナスに作用

来場者の増減要因をみると、プラスの影響としては、「コロナの感染状況の沈静化」（68.6%）を挙げる声が多かった（図表1）。独自の企画など「自施設の取組み」（46.0%）、「メディアやSNSなどによる露出」（45.3%）がこれに続いたが、特に「自施設の取組み」は、昨年よりも来場者数を伸ばした施設やイベントのうち6割



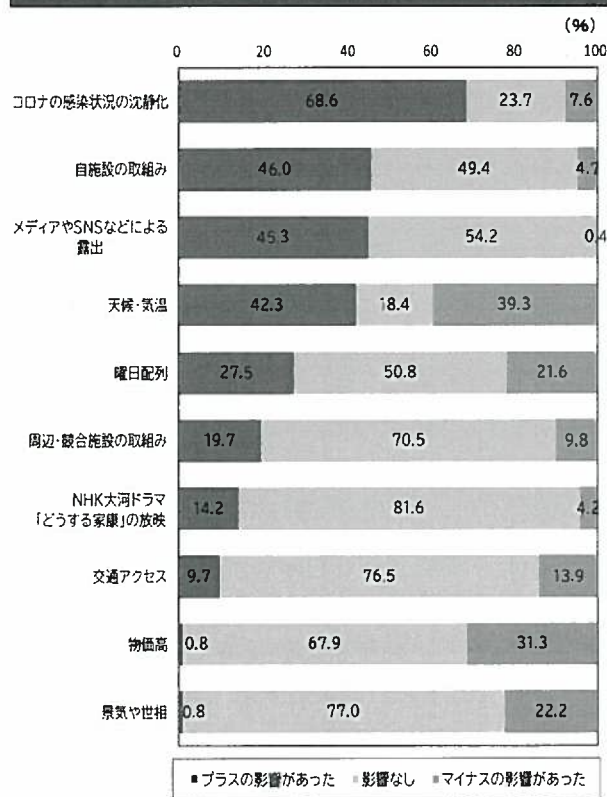
以上が「プラスの影響があった」と回答しており、独自イベントの開催や、GWに合わせた限定商品の発売などがプラスに作用したとみられる。

一方、「天候・気温」に関しては、「マイナスの影響があった」とする回答が4割近くあった。GW中盤は好天に恵まれたが、30日と7日の日曜日は両日とも雨となり、晴天が多かった昨年と比べてマイナス要因とする割合が高かった。また、「曜日配列」については、期間中の土日祝日が昨

年より1日少なかったことから、集客にはマイナスに作用した模様だ。さらに、「物価高」(31.3%)や「景気や世相」(22.2%)についても「マイナスの影響があった」との回答が多くみられた。

このように、コロナ収束は大きなプラス要因となったものの、天候や曜日配列に加えて、物価高による家計状況が人出を鈍らせる要因になったと推測される。

図表1 来場者の増減要因



資料：当社アンケート

西部地域は大幅増だが、中部、東部は低調

地域別にみると、「浜松まつり」の完全開催に加えて、騎馬武者行列が盛況だった西部地域は、前年比2.8倍の大幅増。コロナ前の2019年と比較しても+1.2%回復した。中部、東部地域は、イベントが堅調だったものの施設の苦戦が目立ち、それぞれ前年比△21.8%、△12.3%と低調だった。こうした中、県内で5万人以上を集客したイベントや施設は図表2の通りである。

以下、GW期間中のイベントや観光施設を7つのグループに分けて今年の動向をみていく。

1. イベント (21先)

[ 285.6万人 22年比+7.2倍 19年比△13% ]

～浜松まつりが大幅増も、コロナ前には届かず～

県内の主要イベントの集客数は285.6万人で、前年に比べて7.2倍と大幅に増加したものの、コロナ前の2019年との比較では△13.3%の減少となった。

GW期間中における県内最大イベントである「浜松まつり」(浜松市)は、昨年まで規模を縮

図表2 静岡県内のGW集客5万人以上のイベント、施設

順位	イベント、施設名	集客人数	前年比	2019年比	順位	イベント、施設名	集客人数	前年比	2019年比
1	浜松まつり (浜松市)	255.5万人	20.8倍	+21.8%	5	三嶋大社 (三島市)	8.4万人	△9.0%	—
2	遠鉄百貨店 (浜松市)	13.9万人	+29.6%	—	6	浜名湖ガーデンパーク (浜松市)	7.8万人	△20.8%	△14.0%
3	富士川楽座 (富士市)	12.7万人	△2.5%	△25.1%	7	浅間大社 流鏝馬祭 (富士宮市)	7.5万人	+44.2%	△16.7%
4	道の駅 伊東マリタウン (伊東市)	9.7万人	+2.8%	△27.7%	8	三島スカイウォーク (三島市)	7.2万人	△2.0%	△37.9%

注) データ公表が可能なイベント、施設のみを公表した

資料：図表1に同じ

小しての開催だったが、今年は、「凧上げ合戦」や「御殿屋台の引き回し」がコロナ前とほぼ同じ形で行われた。加えて、NHK大河ドラマ「どうする家康」主演の松本潤さんらが参加した5日の騎馬武者行列は68万人の見物客が訪れ、5月3～5日の3日間の人出は延べ255.5万人。これは、過去最多だった2019年の209万人の記録を更新した。その他、「浅間大社 流鏑馬祭」（富士宮市、7.5万人）や「こいのぼりフェスティバル」（沼津市、2.2万人）など、4年ぶりに通常開催されたイベントが多く、いずれも昨年の人出を上回ったが、ほとんどが2019年の水準には届かなかった。

## 2. 商業施設・道の駅（47先）

〔 194.5万人 **22年比△11%** 19年比△40% 〕

～県外に客が流れ、多くの施設で前年割れ～

商業施設・道の駅の集客数は194.5万人で、前年比△10.9%と減少した。

百貨店やショッピングセンターなどの大型商業施設の約8割は来場者数が前年から減少した。コロナ沈静化によって遠出しやすい環境が整ったことで、久しぶりの開催になった県内外のイベントに客が流れたとみられる。地域別では、浜松まつりの恩恵を受けた「遠鉄百貨店」（浜松市、13.9万人）や「アクトシティ浜松」（浜松市、4.3万人）などJR浜松駅周辺の施設は賑わいをみせたが、中部や東部の施設に関しては、来店客の上積みが見られず、期待通りの集客にはつながらなかった模様。

道の駅では、「富士川楽座」（富士市、12.7万人）や「道の駅 伊東マリンタウン」（伊東市、9.7万人）に多くの人々が訪れた。期間中の東名・新東名高速道路の県内区間における1日当たりの平均交通量は前年比で+3～5%の増加で、県内の道の駅の利用者数も交通量に比例して、回答のあった全20先の合計は前年比+3.5%増加したものの、2019年と比べると△23.3%減少した。

## 3. 参加・体験型施設、娯楽施設（74先）

〔 94.5万人 **22年比△12%** 19年比△43% 〕

～映画館は好調も、全体では悪天候が響き減少～

参加・体験型施設や映画館などの娯楽施設の来



▲県外から多くの観光客が訪れた三島スカイウォーク

場者数は94.5万人で、前年比△11.9%減少した。

テーマパークなどの参加・体験型施設では、例年県外から多くの来場者が訪れる「三島スカイウォーク（写真）」（三島市、7.2万人）や「焼津さかなセンター」（焼津市、4.9万人）が賑わったものの、昨年実績には届かなかった。企画展「恐竜のおならシアター」が家族連れに人気で、前年比+11.4%の増加となった「富士山樹空の森」（御殿場市、3.0万人）がある一方、『人々が集中することを避けるため、積極的にイベントは実施しなかった』という施設もあり、施設での取組みが集客に影響したことがうかがえる。

一方、娯楽施設では、映画館の全回答先が前年を上回り、全体では前年比+67.4%の増加となった。「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」、「名探偵コナン 黒鉄の魚影」などのヒット作が揃い、近隣の家族客を中心に多くの人を集めた。

アウトドアブームで人気が高まっているキャンプ場だが、今年は7割超の施設で前年を下回り、全体でも前年比△25.1%のマイナスとなった。4月30日と5月7日が悪天候となり、『直前のキャンセルが相次いだ』との声が聞かれ、天候の影響を強く受けた。

## 4. 動植物園・水族館（22先）

〔 33.2万人 **22年比△24%** 19年比△34% 〕

～他のレジャー施設に客が分散し、減少～

動植物園・水族館の来場者数は33.2万人で、前年比△23.5%となった。



「浜名湖ガーデンパーク」（浜松市、7.8万人）、「静岡市立日本平動物園」（静岡市、3.2万人）など、回答先の9割以上の施設で前年比マイナス。敷地が広く、屋外の施設が多いことから密を避けながら楽しめる施設として、コロナ禍でも来場者数の減少幅は小さかったが、今年はさまざまな規制が緩和されたことで遠出をする人々が増加し、他のレジャー施設に流出した模様。また、『GWの中盤までは5月5～7日が雨予報だったことにより、屋外施設は敬遠された可能性がある』との声が聞かれ、天候を減少要因とした回答が全体の6割近くにのぼった。

### 5. 博物館・美術館 自然スポット (51先)

〔 32.6万人 22年比△17% 19年比△4% 〕

～家康関連スポットは好調も、東部が悪化～

博物館・美術館、自然スポットの来場者数は32.6万人で、前年比△17.3%の減少となった。

NHK大河ドラマ「どうする家康」効果により、「浜松城」（浜松市、2.1万人）などのドラマ関連スポットは前年を上回ったが、反対に昨年大河ドラマ（鎌倉殿の13人）の舞台となった伊豆の国市周辺は、『昨年は大河ドラマで市内を訪れた方が寄ってくれたが、今年はその分がマイナスになった』（江川邸）と、昨年からの反動により、来場者数が減少した施設が多かった。地域別でも東部地域が△29.4%と、他地区と比べて減少幅が大きかった。

### 6. 日帰り温浴施設 (20先)

〔 11.3万人 22年比△14% 19年比△51% 〕

～曜日配列、物価高がマイナス要因となり減少～

スーパー銭湯や温泉などの日帰り温浴施設の来場者数は11.3万人で、前年比△14.3%の減少となった。

「瀬戸谷温泉ゆらく」（藤枝市、0.6万人）、「小山町町民いこいの家 あしがら温泉」（小山町、0.6万人）のように、来場者数が前年を上回った施設は少なく、全体の60%の温浴施設が減少した。来場者の増減要因としては、曜日配列をマイナス要因とした回答が4割近くに上り、『GW前半に3連休があった昨年に比べて、曜日配列に

よる集客減が大きかった」（富士山天母の湯）との声が聞かれた。また、物価高を減少要因とした割合は60.0%と、全7グループの中で最も多かった。

### 7. スポーツ関連施設 (12先)

〔 10.4万人 22年比△46% 〕

～遠出傾向により、近隣からの来場者減少～

スタジアムや総合体育館などのスポーツ関連施設の来場者数は10.4万人で、前年比△46.1%の減少となった。期間中、連日フットサルや新体操の大会が行われ、観客を集めた「浜松アリーナ」（浜松市、0.6万人）など、昨年よりも来場者数が増加した施設もあるが、「自転車王国 サイクルスポーツセンター」（伊豆市、1.4万人）など、東部地域を中心に集客に苦戦した施設が多かった。特に一般市民が利用でき、近隣からの来場者が多い総合体育館は、事前の予約が少なく、9割以上の施設で減少した。

### 交通機関は鉄道、高速、飛行機とも前年を上回る

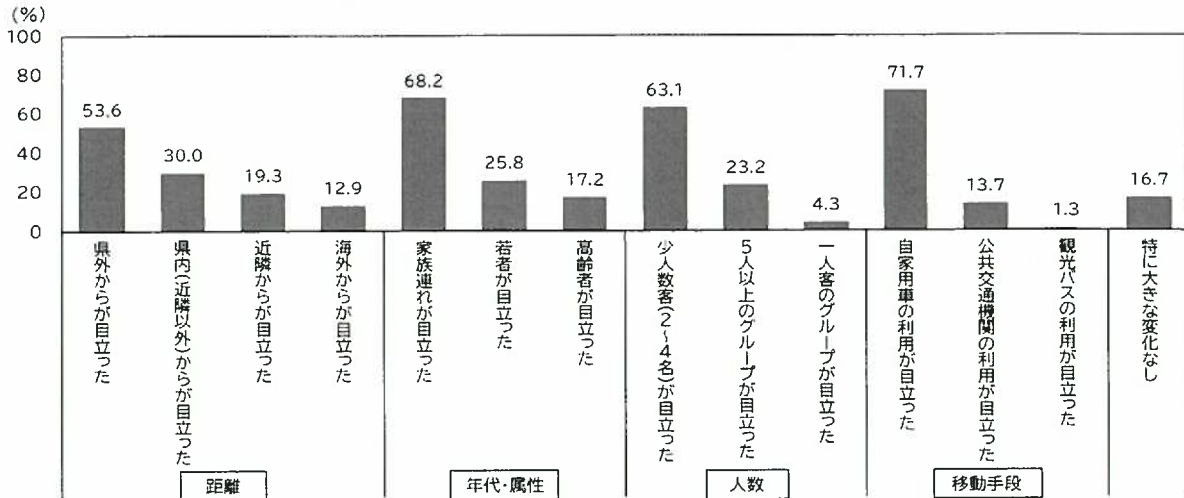
GW期間中の交通機関の利用状況については、昨年に比べて小幅な増加にとどまり、感染拡大前の水準までは戻らなかった。

JR東海管内における4月28日から5月7日までの新幹線の利用者数は、前年比1.3倍の356.7万人で、コロナ前の2018年をわずかに上回った。一方、JRの静岡近郊区間の定期外利用人員は97.2万人で前年比+19%だったが、2018年との比較では8割程度にとどまった。新幹線の利用者数がコロナ前の水準まで回復したことを考えると、静岡近郊の人の動きはまだ回復しきれていないようだ。

一方、中日本高速道路(株)によると、同期間の高速道路の県内区間における1日当たりの平均交通量は、東名高速道路で51,000台（前年比+5%）、新東名高速道路で72,100台（同+3%）と、いずれも前年比で微増だが、2019年との比較では△2割ほど少なかった。

富士山静岡空港の国内線の利用実績は、(株)フジドリームエアラインズによると、4月29日から5月7日まで搭乗者数は10,336人で、搭乗率は78.1%と前年（70.2%）を上回った。

図表3 今年の来訪者の特徴(複数回答)



資料：図表1と同じ

マイクロツーリズムが一服し、遠出傾向が強まる

昨年のGWは、東部地域を中心に県外からの来訪者が増したが、今年のGWでは、どのような客層が県内の観光地に足を運んだのだろうか。

今年の来訪者で目立った客層は“県外客”“家族連れ”“2~4人”“自家用車”という特徴が浮かび上がる(図表3)。一方、“近隣客”が目立ったという回答は昨年の35.2%から19.3%へと15.9ポイント低下。コロナ禍で注目されたマイクロツーリズムは一服し、近隣の人々が県外など遠方に流出したことで、近隣客の来訪が減った

図表4 来場者の消費単価が“プラス方向に変化した”と回答した割合

施設等グループ	支出項目	入場料・イベント参加費	飲食代(自転車路上含む)	土産購入代
1. イベント		27.3	66.7	58.3
2. 商業施設・道の駅		20.0	74.4	55.6
3. 参加・体験型施設、娯楽施設		22.7	64.7	46.8
4. 動植物園・水族館		52.9	31.3	52.9
5. 博物館・美術館、自然スポット		24.4	20.6	41.9
6. 日帰り温泉施設		41.2	52.9	41.2
7. スポーツ関連施設		11.1	22.2	0.0
全体		30.9	45.2	44.6

■は回答率50%以上の項目

資料：図表1と同じ

とみられる。

また、来場者の消費単価については、物価高を受けて価格改定した施設もあり、「入場料・イベント参加費」、「飲食代」、「土産購入代」のいずれも3~4割が“プラス方向に変化した”と回答した(図表4)。なかでも、“イベント”と“商業施設・道の駅”は、7割前後が「飲食代」の客単価が上昇したと回答した。

以上、今年のGW期間中の県内施設やイベントの集客動向をみると、全体の集客数では前年を上回ったものの、個別でみれば6割超の施設・イベントで前年を下回り、9割超がコロナ前の実績に届かなかった。4年ぶりに気兼ねなく外出できる環境が整ったとはいえ、静岡県民を含めた観光客は、コロナ禍で近場観光が続いた反動で、久しぶりに遠隔地に出掛けた可能性が高い上、天候や物価高がマイナスに作用してGW前の予想に届かなかったと思われる。

これから本格的な観光シーズンに突入する静岡県は、老舗観光地としての実力発揮が期待される。6月には富士山が世界遺産に登録されて10年の節目を迎えるほか、今年は静岡県が「東アジア文化都市」に選定され、国内外に本県の魅力をアピールする絶好の機会が訪れる。繁忙期である夏休みや秋の行楽シーズンに向けて巻き返しを図るべく、精力的な情報発信で静岡県の良さを再認識してもらい、観光客を呼び戻したい。

図表5 2023年GW 静岡県内イベント、観光施設の入出

イベント、施設名	所在地	入出(人)	昨年比	イベント、施設名	所在地	入出(人)	昨年比
富士川楽座	富士市	126,519	△2.5%	草薙総合運動場	静岡市	18,002	△25.4%
道の駅 伊東マリンタウン	伊東市	96,554	+2.8%	静岡市民文化会館	静岡市	11,130	△54.4%
三嶋大社	三島市	84,413	△9.0%	静岡科学館る・くる	静岡市	10,766	+15.1%
浅間大社 流鏝馬祭	富士宮市	75,000	+44.2%	ディスカバーパーク焼津天文科学館	焼津市	9,285	+19.7%
三島スカイウォーク	三島市	72,000	△2.0%	静岡市立登呂博物館	静岡市	9,081	△5.3%
道の駅 伊豆のへそ	伊豆の国市	32,423	+11.3%	静岡市美術館	静岡市	7,229	△16.9%
富士山樹空の森	御殿場市	30,146	+11.4%	道の駅 川根温泉	豊田市	7,172	△10.6%
富士山こどもの国	富士市	26,311	△6.6%	うみえ〜焼津	焼津市	6,970	△7.4%
白糸の滝	富士宮市	25,042	+1.0%	焼津市文化センター	焼津市	6,878	+73.5%
三島市立公園 楽寿園	三島市	22,819	△17.3%	西ヶ谷総合運動場	静岡市	6,049	△3.3%
こいのほりフェスティバル	沼津市	21,900	4.0倍	瀬戸谷温泉ゆらく	藤枝市	6,042	+0.6%
小室山リッジウォーク“MISORA”・Café・321	伊東市	20,682	△18.6%	おれっぴ大久保	藤枝市	5,743	+82.8%
春のあたまビール祭り	熱海市	20,000	+39.1%	静岡市ふれあい健康増進館 ゆ・ら・ら	静岡市	5,703	△1.6%
伊豆パノラマパーク	伊豆の国市	17,861	△7.5%	ぶじのくに茶の都ミュージアム	島田市	5,521	△12.6%
道の駅 開国下田みなと	下田市	17,023	△3.2%	中部地域その他43カ所		606,477	—
春の大通り商店街まつり	三島市	15,000	+50.0%	<b>中部地域合計</b>		<b>958,297</b>	<b>△21.8%</b>
第44回 みどりまつり	裾野市	14,894	9.7倍	浜松まつり	浜松市	2,555,000	20.8倍
伊豆アニマルキングダム	東伊豆町	14,774	△21.7%	選鉄百貨店	浜松市	138,960	+29.6%
田貫湖キャンプ場	富士宮市	13,844	△9.0%	浜名湖ガーデンパーク	浜松市	77,598	△20.8%
自転車の国 サイクルスポーツセンター	伊豆市	13,723	△19.7%	アクトシティ浜松	浜松市	42,623	+762.8%
伊豆修善寺 虹の郷	伊豆市	12,434	△8.9%	道の駅 潮見坂	湖西市	37,344	△4.4%
酪農王国 オラッチェ	函南町	11,079	△7.5%	静岡県立森林公園	浜松市	31,000	△24.4%
道の駅 伊豆月ヶ瀬	伊豆市	10,928	△11.5%	うなぎバィファクトリー	浜松市	30,495	△0.8%
石廊崎オーシャンパーク	南伊豆町	10,529	△6.6%	はままつフラワーパーク	浜松市	27,446	△21.9%
沼津港大型展望水門「びゅうお」	沼津市	10,254	△12.5%	浜松市動物園	浜松市	26,179	△35.9%
御胎内温泉健康センター	御殿場市	7,794	△15.8%	ポートルース浜名湖	湖西市	22,148	△11.6%
静岡県富士山世界遺産センター	富士宮市	7,120	+12.2%	浜松城	浜松市	20,638	+47.7%
韭山反射炉	伊豆の国市	6,417	△19.9%	浜松オートレース場	浜松市	13,455	△12.6%
時之栖 伊豆温泉村 百笑の湯	伊豆市	6,197	△28.8%	航空自衛隊 浜松広報館	浜松市	13,415	△16.2%
PICA 初島	熱海市	6,079	△5.5%	竜ヶ岩洞	浜松市	11,285	△11.0%
土肥金山	伊豆市	5,706	△18.8%	掛川城	掛川市	10,669	+23.3%
小山町町民いの家 あしがら温泉	小山町	5,640	+1.5%	浜松こども館	浜松市	9,430	+3.2%
富士山天母の湯	富士宮市	5,178	△8.4%	道の駅 風のマルシェ御前崎	御前崎市	8,408	△1.1%
東部地域その他82カ所		1,119,776	—	道の駅 天竜相津花桃の里	浜松市	7,637	+6.0%
<b>東部地域合計</b>		<b>1,986,059</b>	<b>△12.3%</b>	浜名湖体験学習施設ウオット	浜松市	7,524	△26.3%
焼津さかなセンター	焼津市	49,434	△9.0%	とよおか探れたて元気むら	磐田市	6,404	△15.7%
KADODE OOIGAWA	豊田市	48,699	△13.7%	浜松市総合水泳場ToBIO	浜松市	6,226	△26.8%
藤まつり	藤枝市	46,057	+24.5%	浜松アリーナ	浜松市	6,181	+24.8%
清水魚市場 河岸の市	静岡市	38,074	△8.9%	道の駅 いっぶく処横川	浜松市	5,559	△16.0%
静岡市立日本平動物園	静岡市	31,893	△28.8%	西部地域その他46カ所		558,994	—
静岡競輪場	静岡市	22,092	△13.1%	<b>西部地域合計</b>		<b>3,674,618</b>	<b>2.8倍</b>
				<b>静岡県合計</b>		<b>6,618,974</b>	<b>+37.9%</b>

資料：図表1に同じ

注1) データ公表が可能で、入込客数が5,000人以上のイベント、施設のみを掲載した

注2) 各地域の最下部には、入出が5,000人未満およびデータ公表を不可としたイベント、施設の数字を合算して記載した

注3) 入出の合計値は、今年度の実数が把握可能なすべての数値を合算

調査方法：GW期間中の主なイベントや観光・レジャー施設など、516先に調査票を送付、うち247先から回答を得た(回答率47.9%)